

令和4年10月28日

二宮町教育委員会議録

(定例会・臨時会)

二宮町教育委員会

- 1 開会時間 9時 30分
- 2 閉会時間 11時 30分
- 3 教育長名 森 英夫
- 4 署名委員 岡野 敏彦
- 5 教育長及び委員

出欠席	職名	氏名
○	教育長	森 英夫
○	教育委員 教育長職務代理者	野谷 悦
○	教育委員	岡野 敏彦
○	教育委員	藤原 直彦
○	教育委員	杉本 かおり

- 6 出席者氏名
- | | |
|--------------|-------|
| 教育部長 | 椎野 文彦 |
| 教育総務課長 | 下條 博史 |
| 教育総務課長代理 | 田中 明夫 |
| 生涯学習課長代理 | 竹本 直昭 |
| 教育総務課教育総務班長 | 大木 健司 |
| 教育総務課教育総務班主査 | 添田 理代 |
- 7 傍聴者 0名
- 8 調製者 教育総務課教育総務班主査 添田 理代

1 開会宣言

(教育長) 令和4年度10月定例教育委員会議を開催します。

2 署名委員の氏名

岡野委員を指名する。

3 教育長事務報告

(教育長) 教育長事務報告を資料に基づいて行う。

(教育部長) 10月政策会議結果報告を資料に基づいて行う。

(各課長・指導主事) 各課の事務報告・事業予定・研修内容について資料に基づいて説明する。

(岡野委員) ご紹介いただいた『カモン！二宮！プロジェクト』は、すごいなと思いました。最終目標に向かって、課題を見つけ、解消し、根拠を示す、この流れは、実際の仕事でも同じことです。2つのポイントがあり、1点目は、聞く姿勢です。例えば、小学校5、6年生と一緒にいると、もっと良いのではないかと感じました。小中一貫教育の一番コアの部分である、先の世界を見せる意味で、中学生はこういうことをやっているんだ、と小学生に伝えることができます。2点目は、発表の本番では原稿を見ない、と書いてあることです。正確さではなく、自分の言葉で話して、メッセージを伝えることがすごく大事なことだと感じました。

(教育総務課長) 皆さんの構成が大体同じだったので、8月30日の『今後の見通し、良いプレゼンとは？』でレクチャーがあったと考えられます。最初に自分はどう考える、なぜなら、こうだ、の議論構成が多く、そのレクチャーを受けたからこそ、良いプレゼンテーションだったと思います。また、聞く姿勢もおそらくレクチャーはあったのですが、元々、笑顔が絶えないクラスだと聞いているので、とても良い雰囲気だったのだらうと感じました。また、小学生が中学生のプレゼンテーションを見に行く機会を作ろうと考えています。先月、中学校の生徒会の役員が小学生に中学生生活のプレゼンテーションをしました。少し年上のお兄さんお姉さんが説明してくれることで、小学生が身近に感じたようで、質問に丁寧に答える中学生の姿は、自分の近い将来をイメージする、という意味でも良かったと思います。

(岡野委員) ガラスのうさぎ友情のつどいも同じですが、子どもたちの中だけで、自動的に繋いでいけるような仕組みづくりが必要だと思います。プレゼンテーションだけでなく、思考のプロセスを見せていくこともそうだし、二宮の戦争体験を繋いでいくという意味でも、中学生がどういうことをどういう視点で捉えて、考えて、発言していくのかを小学生が見ることが大事です。

(藤原委員) 『カモン！二宮！プロジェクト』の資料を見ることはできないのでしょうか。

(教育総務課長) 本日10月28日の学年発表者分の資料提供を学校にはすでに依頼しています。

(藤原委員) プレゼンテーションの動画を見ることができるのが一番いいです。『各プロジェクトで提案したものが、もしかしたら二宮町で実際に使われるかも?』とありますが、どういうことなのでしょう。

(教育総務課長) 『二宮町で実際に使われるかも?』とあるのは、町長と移住定住促進主管課の地域政策課が講評するためです。中学生の提案をこれからの移住定住施策に結びていきたい、という考えもあるためです。

(岡野委員) 中学生が二宮町への提言として、オープンにできると、相互にとって良い循環のきっかけになるのではないかと思います。

(教育総務課長) 子どもたちは夢を描いている部分もあるので、これがさらにキャッチボールに発展すると、二宮町の実情を少しずつ伝えられます。しかし、子どもたちは、二宮町の実情をよく分かっています。

(教育部長) 高齢者が多い、お金がないなど、よく知っています。

(岡野委員) 直球な意見でいいと思います。

(教育総務課長) 教育長が、子ども議会などで町として子どもの意見を受け止める、という話しもされてきました。総合計画の中でも、中学生アンケートを実施し、意見を吸い上げていますので、今後も子どもたちの思いを受け止めていくことを進めていきたいと考えています。

(教育部長) 総合計画は、10年後の将来を計画するためですので、今の子どもたちが大人になったときに、どうあるべきかは、ぜひ取り入れたい部分です。

(藤原委員) 子どもの意見の中で、良さそうなものは取り入れるという姿勢は良くないと思います。それは大人の勝手です。子どもがやるべきと言ったプロジェクトをどうしたらできるのかを大人が考えるプロジェクトにした方が良くと思います。それでも、そのままでは実情や捉え方が違うからできない意見もあるかもしれませんが、子どもが納得するプロセスを踏むために、大人ができるのか自ら試すつもりでやることで、大人にも学びがあるのではないかと思います。そうすることで、子どもももっと意見を言おうと姿勢になると思います。

4 付議事項

(1) 議案第13号 令和5年度二宮町公立学校教職員人事異動方針(案)について

(教育総務課長) 令和5年度二宮町公立学校教職員人事異動方針(案)について資料に基づいて説明

(藤原委員) 毎年同じでしょうか、それとも変更点はありますか。

(教育長) 毎年同じです。学校運営協議会には、人事に関するこの意見を言うことがで

きるとなっています。この意見というのは、誰を赴任させて欲しい、この先生は嫌だ、というのではなく、例えばプログラミングに特化した人を入れてほしい、など人事の動きについての意見のことです。

(教育長) 委員に議案第13号について諮る。
委員全員賛成により、議案第13号は承認される。

5 報告・協議事項

(1) 令和4年度全国学力・学習状況調査結果について

(教育総務課長代理) 令和4年度全国学力・学習状況調査結果について資料に基づいて説明。

(藤原委員) 学力調査結果は、神奈川県や全国と比べられないのでしょうか。生活習慣や学習環境等に関する調査結果は、神奈川県や全国と比較できますが、学力調査結果は、設問に対してのコメントになっているので、まとめ方が異なっています。

(教育総務課長代理) 学力調査結果の公表の仕方は、神奈川県や全国と比べて、数ポイント低いだけで、敏感に捉える方もいます。また、神奈川県や全国と比べるのではなく、課題点を出していくことが意図としてあります。

(教育総務課長) 例年、小学校は全国と比べて横ばいかやや低い、中学校は全国よりやや高い状態が続いています。先生方のモチベーションにも関わる問題になるため、校長会に諮り検討します。

(教育長) 小中学校の校長先生が学校での意見を持ち帰り、フィードバックし、まとめています。しかし、速報値ではパーセンテージが出ているので、校長会に諮ります。

(野谷委員) 数日前に、他県では事前対策をしている、とNHKで報道されました。対策をすれば、一定程度上がるのは明らかで、過度の対策は慎まなければならないと思います。また、小学校では課題を抱えている学年もありますので、その影響があると考えられます。

(藤原委員) 数字は出さずに、全国と比べて低い部分を、先生方も課題として認識しているので、手を打とうとしていることを、一般の方にも伝えた方がいいのではないかと思います。

(岡野委員) 『カモン！二宮！プロジェクト』のような総合的な学習である質問番号45は、高いのですが、質問番号30の『地域や社会をよくするために何か考えていることがある』は、とても低いです。今回は、地域課題を解消して地域を盛り上げるという意味では、45と30は連動していると思います。将来、自分の力で、地域を変えてみようという意識に繋がっていくと良いと思います。

(教育総務課長) 『カモン！二宮！プロジェクト』は全国学力・学習状況調査の後のため、タイミングの問題もあると思います。全国学力・学習状況調査の前に、『カモン！二宮！プ

プロジェクト』をやれば、質問番号 30 は一気に上がる可能性があります。継続的に地域を良くするという意味で、教育長が小中一貫教育で『にの学』とおっしゃっていますので、『カモン！二宮！プロジェクト』は『にの学』に通じるものなので、そういう心も育てていかなければならないと感じています。

(岡野委員) 全国学力・学習状況調査をやる前から、そういうプロジェクトをやることが定着していけば、質問番号 30 もおそらく上がっていくと思います。経済産業省の未来人材ビジョンの中で、『自分で国や社会を変えられると思う』で日本は 18% と低く、OECD 加盟の他国は 40% を超えています。自分で何かを変えていこう、というところに繋がっていないことは、ここからも読み取れますので、グローバル化というのであれば、そういう対比も見ながら、取り組んでいくべきかと思います。

(教育総務課長代理) 二宮町を知るところで終わっている課題が多いので、それを改めて、例えば小学校 5・6 年生の段階で、中 3 と同じような内容を 1 回実施し、その後中 3 のプレゼンテーションを見る経験を試してみるのも、質の高まりに繋がると思いますので、総合学習のワーキンググループでも話してみたいと思います。

(教育長) 学校でも地域のことを一生懸命考えていますが、質問番号 29・30 をみると、非常に低いのが現実で、地域の人との繋がりがどんどん薄くなっています。タブレットやゲームで遊ぶことが多く、外で子どもたちが触れ合っただけで過ごせるような機会が減っています。地域のことを考えることで、町全体に繋がっていくと思います。

(教育総務課長) 中 2 のときにやって、中 3 で 1 年かけて考えることができると、地域を自分たちが変えられるんだという希望にもなると考えています。

(藤原委員) 小 5・6 だけでなく、中 1・2 が見てもいいと思います。全国学力・学習状況調査対策になれば良いですが、全国学力・学習状況調査対策のためにやっているわけではありません。1 年生のときに見ておけば、3 年生にあるプロジェクトのことを考えながら、行動します。声を上げて、問題意識を持ち、良いアイデアだったら、町が動いて地域を変えられるという成功体験をしてもらいたいです。そのプロジェクトに関わった子たちがその体験を糧に成長し、「将来二宮に戻ってきたらラッキー」と思い、「将来も二宮」と強要しない方がいいとも思います。

(野谷委員) 地域の方から、今の子どもたちの課題として、地域の行事に参加しない、協力しない、が出てきます。質問番号 29 は中学校 34% ですが、以前に比べると高くなってきています。子どもの活動に対して地域に協力してもらおうのが本音ですが、子どもの学びを続ける中で、地域に働きかける、という流れを大事にする中で、総合学習の価値を高める流れがあるような気がします。子どもの提案を一つでも実現するために大人も努力するような流れに期待します。

(岡野委員) P7 の小学校国語の「解答時間は十分でしたか」の質問に「やや足りなかった」「全く足りなかった」が過半数なのは、考えるスピードが追いつかないということです。社会に出て、仕事をすると、必ず納期があります。無回答の欄が、設問の最初の方だと諦め

ていると思いますが、後半に集中にしているのであれば、時間が間に合わなかったたけなので、スピードを上げる必要があり、対策の方法が違います。無回答の所在を整理すれば、次のステップが見える気がします。

(教育総務課長) 校長会での意見は、最後の設問までたどり着かない、という言い方が強かったです。そのため、読解力の問題もあるので、国語は大事だと出ました。

(岡野委員) 算数数学の代数は解けるけど、文章問題は解けなくなるというのはあるのでしょうか。

(教育総務課長代理) 自分のペースでじっくり読んで解答したため、対策をしていないことも現れていると思います。

(野谷委員) 子どもの読解力をつけるための研究はやってきてはいますが、正答率が低い現実があります。また、回答時間が足りないというのも、塾の意見では練習が必要というのがありました。対策をしているのとしていないのでは、差が出ていると思います。もちろん事前対策をしたほうが良いという意見ではありません。

(教育総務課長代理) 教育委員会としても、読解力を含めて、課題の一つとして捉えています。現在、吉原先生の前、人の話を聞いてアウトプットすることを強化しています。次の課題として、資料を読み込む、話し合いを生かすかが考えられます。

(教育長) 来年度の全国学力・学習状況調査には、理科がなく、英語が入ってきます。英語はオンラインと聞いていますので、事前対策も必要と思っています。

(2) 二宮町成人祝賀会事業補助金交付要綱の一部を改正する要綱について

(生涯学習課長代理) 二宮町成人祝賀会事業補助金交付要綱の一部を改正する要綱に基づいて説明。

(岡野委員) 数字の20と書いてありますが、漢字の二十歳でなくてもいいのでしょうか。

(生涯学習課長代理) 数字か漢字かは、去年の議論で数字にまとまりました。

(3) その他

一 次回教育委員会予定 一

(教育総務班長) 次回教育委員会議の日程及び出席を要する主な行事について説明。

10時56分 閉会